



とよしましお
豊島敏夫さん
(昭和16年生まれ・74歳)



たかやま こづえ
高山 梢さん
(香川大学1回生)

コーディネーターより

さぬきうどんづくりが盛んな綾歌郡綾川町で、郷土料理として食べられてきた「ドジョウ汁」。ドジョウうどん、野菜を煮込んだ味噌仕立ての打ち込みうどんです。今ではあまり見られなくなったドジョウですが、昔はあちこちの川や池で捕れたそうです。手作業で農作業をしていた昔、滋養たっぷりのドジョウ汁は、稲の収穫という重労働を終えた人たちがみんなで食べて力をつけた栄養食でした。稲穂が黄色く色づく風景は、里の人たちに「そろそろドジョウ汁の季節がくる」と教えてくれたのです。時代は変わり、今では稲刈りを機械に頼るようになりましたが、郷土に根づいたドジョウ汁の味は継承され、地域の集まりなどでつくられ食されています。

——ドジョウ汁はどんな時に食べるのですか？

暑い夏が過ぎ、稲刈りが近くなると、田んぼの水を抜く。すると泥の中からドジョウが顔を出すんですよ。昔は、農作業はすべて人の手でやっていたから重労働や。だから米の収穫を終えたら、みんな大きな釜を囲んで、ドジョウ汁で労をねぎらっていました。あれぐらいバランスの摂れた食べ物はないですよ。食べてみたらわかる。まず、うどんが入っていて、味付けが味噌仕立てでしょう。そして野菜がいっぱい入って一緒に煮込むわけです。それに動物性タンパク質のドジョウが入ります。タンパク質やビタミンがたっぷり摂れるドジョウ汁は、肉休労働をするときの栄養補給やな。バランスが良くて、完全食と言ってもええぐらいやわなあ。

ドジョウは、恐がったらいかんのよ、頭からみんな食べるんやから、絶対美味しいから。うどん、ドジョウ、野菜を組み合わせたのは、身近にあって手に入れやすかったからやろなあ。ドジョウは子供でもスツと捕れるしね。綾川だけでなく、日本中どこにでもおったと思うね。それでこの綾川地域は、うどんづくりが盛んな地域でもあるから、ドジョウとうどんを結びつけて食べたということやろなあ。

——ドジョウ汁は誰が作るのですか？
農作業の合間で、お昼ご飯にみんながぱっと帰ってきたときにね。農家だったらどの家でも、たいてい自前で打ち板と

ドジョウ汁は田んぼの恵み、地域の絆の味。

綾川町のドジョウ汁名人 豊島敏夫さん(綾川町)



労働のご褒美、ドジョウ汁は栄養補給を兼ねたごちそうだった。

1 高山さんと、うどん職人でもある豊島さん 2 塩で洗ったドジョウを酒の中に入れて、桶の中で酔ったように踊り出す。酒で臭みを除いたドジョウと野菜を煮込んで、うどんを投入し、味噌で仕上げ 3 みんなでつくって、みんなで食べる。ドジョウ汁とお酒さえあれば、何時間でも話が弾みます 4 野菜、豆腐などがたっぷり入ったドジョウ汁。ドジョウの出汁がしっかり利いた汁も滋味豊かな味 5 ドジョウはとろりと柔らかく、臭みもないので、頭からまるごと食べられます

参加者の感想



一番心に残ったのは、ドジョウ汁は人や地域の輪づくりであるということ。ドジョウ汁をつくる様子を見せていただいたのですが、大鍋を囲んで会話が弾み、「いただきます」と一緒に食べる様子がとても楽しそうでした。また、ドジョウの話聞くうちに、川や池、そして人々の生活へと話がつながり、そのすべてが「里」という場所につながっていると知りました。今までよく知らなかった里について、名人から聞くことができ、このプロジェクトに参加してよかったと思いました。

めん棒はありました。それで家で留守番をしているおばあさんが昼ごはんにうどんを打つんです。その時に、ドジョウがおったらドジョウを入れて。
でも行事の時は、男の人がつくります。量が多いから、女性だけではできません。男の人の出番みたいなもんやね。いろんな地域社会の輪づくり、人の絆づくりの一つの方法やろなあ。今はそんなにしょっちゅうドジョウを捕まえるわけにはいかんからね。
今でもドジョウ汁は、地域みんなが集まった時などに食べます。一つのを一緒に食べるのが、絆づくりにつながるんです。みんなで作って、みんなで食べる。女性はそりゃあ手伝いますよ。だから男だけが作るというわけじゃないってね、女性も手伝って一緒に食べます。子供も全員ですよ。

豊島さんから受け取った言葉

——ドジョウは、どこに棲んでいたのですか？

昔は、ドジョウがどこにでもおった。田んぼの中にもおるし、川の溝の中にも棲んどった。タニシやシジミ、ウナギにフナ、小魚もいっぱいおったな。子供の頃は、自分たちでよくドジョウを捕まえた。ザルみたいなので、向こうから来るのをシュッと捕まえてね。数人でガーツと追い回したら下流のほうへ逃げたりするでしょう。そこで待ちよつたら何匹も捕れました。

僕らは、池で泳いでたんですよ。池の水がものすごく澄んでたから。家の近くを流れる綾川でも、毎日のように泳ぎましたよ。泳げるほど綺麗な川というのは、その頃でも、どこにでもあるわけじゃないからね。川と同じく、池でも泳いでたし。

